

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家 ユニット名( 1号館 )		
所在地	茨城県牛久市女化町252-6		
自己評価作成日	令和4年5月12日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和4年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>&lt;理念&gt; に:虹の家は地域と関わりながら、じ:自分らしく、の:のびのびと持てる能力を発揮して、い:生きがいと自信を感じながら、え:笑顔あふれる生活を支援します。 上記の理念を実現するため、職員一人一人がご利用者一人一人に合ったコミュニケーションを取り、気が付いたことを職員同士で話し合い、常によりよい支援につなげようと努めています。 自然環境に恵まれ、一年を通して季節を感じて頂けるように季節の行事に力を入れています。 アットホームな自宅の延長のようなくつろげるホームになっています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を作り上げた。 玄関や職員室のデスクに理念を掲げ、毎日、それを意識しながら行動するよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染症の影響で、日常的な交流はなくなっている。 施設周辺を散歩中に会った方と挨拶を積極的に交わしている。 行事で近隣をドライブしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生(介護士や看護師)の受け入れをしていたが、コロナの影響でなくなっている。 管理者は介護保険運営推進会議や認知症初期集中支援チーム検討委員会に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の配置状況やご利用者の入退所、入院状況、介護事故、行事や日々の活動状況の報告をしている。感染症対策、介護事故や防災に関するご意見を多く頂戴し、取り組みに活かしてきた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	職員配置や加算算定等の相談、運営推進会議にてサービスの現状などの報告、生活保護関連の相談、介護保険運営推進会議や認知症初期集中支援チーム検討会への協力などを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を月1回開催。議事録や研修会で全職員に発信し、正しい理解と実践に努めている。無断離設を防ぐため基本的には玄関等、施錠しているが、職員の目の届く範囲で玄関やベランダへの出入口など開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を月1回開催。議事録や研修会で全職員に発信し、正しい理解と実践に努めている。ポスターを職員室トイレのドアに掲示して日常的に啓発活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用しているご利用者を通じ学んでいる。 市の研修会に参加し、地域の特性を理解しながら、制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を含め、ご利用者やご家族の疑問に対し丁寧に説明、対応している。サービスの変更時にも文書や口頭での説明をし、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設けたり、毎月お便りで近況報告したり、lineを使って連絡を取り合ったりして、ご要望を言いやすい環境づくりに取り組んでいる。要望の多くは個別であり、病院までの送迎や日々のケアに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開き、職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映されている。日頃から意見を言いやすい環境である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表によって、個々のチャレンジしたことや達成度などを評価される制度が整っている。いつでも話を話を聞いてくれるよう開かれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の情報を発信し、また、個別に受講を勧め、希望者には受講できるようシフトの調整などを行っている。新人の指導には業務達成度チェック表を使用し、効率的に指導が出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	委員会活動などを通して、法人内の各部署と交流する機会があり、いろいろな意見を見聞きでき、サービスの向上につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、またはご家族から要望や不安を聞いて、入所に向けた準備をしている。入所時から本人の話に耳を傾け、また、気付いたことを記録し、職員全員が情報を共有、対応することに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から不安なことや疑問に対して丁寧に説明し、安心して契約できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報から必要とされる支援に対し、準備を行っている。主治医を変更すべきか否か、歯科などの訪問診療を利用するかなど、家族と相談して決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合わせて、自立支援を行ったり、家事などの役割をもって頂くなどして、職員とともに行うようにしている。人生経験の先輩である方の尊厳を大切に、共に助け合い暮らしを共にしているよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況を報告したり、随時、ケアについて相談や意見を求めたりなどして一緒に考えて頂いている。物品の購入や衣類の交換などご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の流行状況に合わせて、制限付きの面会やビデオ面会などを行っている。話をする中で思い出して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考えながら、一緒に作業をしていたり、話題の提供をしたり、円滑に関係性が深められるよう、見守り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	求めがあれば、丁寧に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話等から本人の思いや要望に耳を傾けている。困難な場合は、生活歴からの情報やご家族の意見を伺い、本人本位になるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から春夏秋冬、いろいろな場面の話から把握したり、センター方式の情報シートをご家族に記入いただいたりして、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日1枚のケース記録を用いて、言動や体調などを細かく記録し、また、情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を日々行い、変化の情報を職員間で共有し、定期的にチームケアの為、カンファレンスを開き、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にその日の言動やケアの結果、工夫等を記録し、情報の共有を図っている。急な変化にも、職員間やご家族と相談し、対応の変更をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の代わりに病院への送迎や付き添いを行ったり、コロナ禍においてもビデオ面会を取り入れたり、急なご利用者家族の葬儀への付き添いを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	権利擁護事業や成年後見人制度を活用している。 コロナの影響で近隣施設への買い物や外出の機会がなくなっているが、時機を見て機会を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や変化に合わせ、ご家族と相談しながら、主治医を決定している。日常の様子や変化の状況を伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来園し、健康チェックをしている。その際、情報や気づきを伝え相談し、指示を仰いでいる。また、24時間連絡体制も取っている。急変時には併設の特養の看護師に指示を仰ぐこともできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、心身の細かな情報を伝えている。退院後の生活に対する利用者やご家族の不安が無いよう、入院中や退院時の情報を得て、対応を検討、説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明とともに、近況の報告をしながら段階に応じてケアの説明や本人家族の意向確認をしている。本人、家族の意向を最優先に、主治医、介護職、看護職が連携して支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のマニュアルを職員室の見やすい場所に掲示している。AEDの使用方法を含めて研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回継走訓練を行ったり、年2回避難訓練を行ったりしている。防災委員会を中心にBCPの見直しや、地域との連携方法を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や価値観を把握したうえで言葉や対応を工夫している。何かで失敗しても責めないことや、してもらったことに対して感謝の言葉をかける、ドアを開ける時にはノックするなどしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく希望や表現をできるよう働きかけ、能力に合わせて尋ね方を変えたりしている。着る服の選択や「～しませんか？」などの声のかけ方など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調やペースに合わせて生活できるよう支援している。例えば、食事の時間をずらしたり、休息の時間をとって頂いたり。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の享祿を得て、衣類や化粧品などをそろえて頂いている。その日着たい服を選んでいただいたり、散髪や神染めの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で職員と一緒に食事を摂ることは中止している。後片付けを一緒に行っている。献立を説明したり、お話ししながら食事を楽しめるよう支援している。時にお菓子作りなどを一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量や好みなどを把握していて、一日を通して記録、確認している。管理栄養士による献立を提供しており、嚥下・咀嚼能力等に合わせた形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできない方に対して、夕食後には本人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。必要な方には歯科医の往診や訪問歯科衛生士による口腔ケアを受ける支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握から、トイレ誘導の時間を決めたり、おむつをしていてもトイレに座って頂いたり、見守りや声掛けの工夫でトイレでの排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全体的にはヤクルトを提供したり、ラジオ体操で体を動かしたり、水分をできるだけ摂って頂いたりしている。個別的にファイバーや腹部のマッサージ、下剤の調整など看護、主治医と連携して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入れるよう、順番や時間帯を決めて行っている。失禁などでとても汚れてしまったときはその都度入浴して頂いたりもする。入浴が楽しめるよう、本人のペースで話したりしながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動して頂き、夜にしっかり眠れるよう支援している。年齢や体調に配慮して適宜休息を勧めている。居室の明かりや空調、掛け布団の調整など安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の申し送り書で把握したり、ケースファイルに薬の情報が綴っており、いつでも確認できる。飲み込みにくいなどの状況が見られれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯ものたたみ等のお手伝いを個々の得意分野で力を発揮して頂き、感謝の言葉を伝えることで自信や張り合いを持って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や体調等に合わせ、散歩の支援をしている。コロナ対策の為、外部と接触する可能性のある外出は中止している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭の所持を希望される場合には、ご家族にその大切さを説明し、承諾を得て所持して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙に返事を書く支援をしたり、居室でご自分の携帯電話を使用して頂いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量に気を付けたり、季節の行事ごとに飾りをしたり、異食に配慮しながら花を飾ったり、清掃で清潔を保持したりし、床の水濡れに気を付けたり、移動の障害にならないよう配慮したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているものの、一つのテーブルで談笑を勧めたり、ホールから離れた場所にソファがあり、自由に移動して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや使い慣れた家具、仏具など自由に持ち込んで頂いている。家族の写真を飾ったり、思い出の品を並べたり、本人が安心して過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の手すりや目印、居室の表札やのれん、カレンダーや時計を場所場所に設置したりしている。		